



気候変動の問題って、遠い未来のことで自分には壮大すぎる、と感じる人が少なくないかもしれません。でも科学の声を聞けば、気候変動が人間の営みによって引き起こされ、“気候危機”のレベルで進行し、このまま進むと近い将来、取り返しのつかない深刻な影響が生じることは明らかです。

人間の営みとは、今日を生きる私たちの選択と行動の積み重ねのこと。私たち一人ひとりの何気ない日々の暮らし方を変えることが、気候変動を止めることにつながります。

人々が行動を起こせば起こすほど、そのインパクトが大きくなります。なぜなら、私たちが取る対策が全体として積み重なり、温室効果ガスの排出量を減らすのだから。政府や企業のリーダーに対しては、人々が気候変動対策を求め、その実施を受け入れる用意があるというメッセージを送ることになります。

個人の気候行動を呼びかける国連の「Act Now グローバルキャンペーン」から、私たちにできる10の行動を紹介します。

「私たちの生活様式と行動の変化を可能にするための正しい政策、インフラ、テクノロジーを導入することで、2050年までに温室効果ガス排出量を40-70%削減することができる。これは、まだ手がつけられていない領域で大きな可能性をもたらすものだ」

— 気候変動に関する政府間パネル (IPCC)
ブリヤダルシ・シュクラ第3作業部会共同議長
2022年4月の報告書発表で



ACT NOW ってなに？

それは、温室効果ガスの排出量正味ゼロの社会をつくるために、私たち個人による気候変動対策をグローバルに呼びかける国連のキャンペーンです。

暮らし続けられる気候を保つためには、温室効果ガスの排出量を2030年までに半減させ、2050年までに正味ゼロとしなければなりません。各国政府や企業などには、大胆で迅速、そして広範囲に及ぶ対策を取ることが求められています。しかし、低炭素社会に移行するには、市民の参加、とりわけ先進国に暮らす人々の参加が不可欠です。

誰もが気温上昇を止め、私たちの地球を守るためにできることがあります。環境に負荷を与えにくい選択をすることで、私たちは解決策の一部となり、変革を進めることができるのです。

「1.5°Cの約束」キャンペーン

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5°Cの約束



国連広報センターは、国連の「SDGメディア・コンパクト」に加盟する日本のメディアに呼びかけ、2022年6月に共同キャンペーン「1.5°Cの約束—いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」を立ち上げました。パリ協定の目標である“世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて1.5°Cに抑える”のために、社会の仕組みの変革のために声を上げることを含め、具体的な行動を示し、個人や組織の行動変容を促すことを参加メディアとともに目指します。

国連広報センター (UNIC)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

国連大学本部ビル 8階

www.unic.or.jp



国連広報センター



UNIC_Tokyo



unic_tokyo



UNIC Tokyo

いますぐ動こう、
気温上昇を止めるために。

個人でできる 10の行動



国連広報センター